

腹腔鏡下右側大腸切除術：2日前入院パス 入院診療計画書

患者 I D	主治医	病 名	説 明 日
患者氏名	() 担当医	管理栄養士	症 状 ☐ 事前検査による異常所見
生年月日	() 看護師	特別な栄養管理の必要性	☐ 患部の自覚症状
病棟(病室)	薬剤師	☐ 有 ☐ 無	(腹痛・便秘・血便・)

月日	入院日・手術2日前	手術前日
患者目標	不安なく手術を受けることができる	
治療 処置 注射 (内服)	現在使用している薬をすべて確認します(現在中止している薬も含む) 入院中に使用する薬について説明します アレルギーの有無等を確認します 	寝る前に下剤を内服します
検査	必要に応じて行います	
食事	病院食のみ摂取できます	手術前日夕方より食事を摂取することはできません 医師の指示によりOS-1を購入していただくことがあります その場合は手術前日の夕方から手術当日の朝までに飲み切ってください
排泄	制限はありません	
清潔	シャワー浴ができます (必要な場合はお手伝いをします)	
活動 (安静度)	制限はありませんが、病棟を離れる際はスタッフに声をかけてください	
説明 (指導)	入院生活や手術について説明します 義歯・補聴器があるかを確認します ネームバンドを装着します 手術の際必要な物品を説明します 手術前までに用意してください	手術室看護師の訪問があります 麻酔科医師から麻酔について説明があります 
その他	毎日回診があります 転倒転落・せん妄リスクが生じる場合は、適宜観察し対応させていただきます	

上記の内容は状態によって変更する場合があります。変更の際は、その都度お伝えします。

注1) 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わり得るものである。

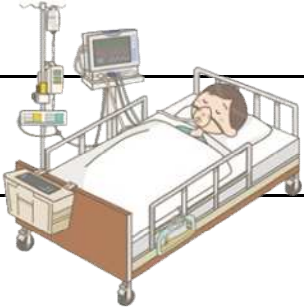
注2) 入院期間については、現時点で予想されるものである。

外科パス：

腹腔鏡下右側大腸切除術: 2 日前入院パス 入院診療計画書

患者氏名

() 患者 I D

月 日	手術前	手術後
患者目標	不安なく手術を受けることができる	手術後合併症を起こさない
治療 処置 注射 (内服)	朝の薬は 時 分 に () を 少量の水で内服します 午前中から点滴をします 	自動血圧計、心電図モニターを装着します 酸素を開始し、足にはフットポンプを装着します 装着時間は状態によって変わります 点滴をした状態で帰室します(続けて点滴します) お腹に管が入っています
検 査	必要に応じて行います	血液検査とレントゲン撮影をします
食 事	食事を摂取することはできません 水分(水・お茶のみ)は決められた時間と量で摂取することができます	食事・水分を摂取することはできません
排 泄	制限はありません	尿の管が入っています 排便はベッド上で便器を使用します
清 潔		翌朝まで手術着のままで観察していきます 消灯前にベッド上で、うがいと顔拭きを行います
活 動 (安静度)	病室内でお過ごしください 手術室へ歩いて移動します 状態によっては車椅子やベッドで移動します 	翌朝の回診まではベッド上で安静となります 
説 明 (指 導)	手術開始予定時刻は 時 分の予定です 手術着に着替え、弾性ストッキング(血栓を予防する靴下)を着用します 装身具(眼鏡・時計・義歯・指輪等)を外します	痛みが強い時や、気持ちが悪い時など、異常を感じた時はすぐにお知らせください 手術後に医師からご家族へ説明があります
その他	毎日回診があります	手術後から翌日まで、病棟HCUもしくはセンターHCUに移ります

外科パス:

腹腔鏡下右側大腸切除術: 2日前入院パス 入院診療計画書

患者氏名

() 患者 I D

月 日	術後1日目	術後2～3日目	術後4日目
患者目標	手術後合併症を起こさない		
治療 処置 注射 (内服)	持続で点滴をします ガーゼの汚染が多い時は交換を行います(退院まで必要時行います) 回診時、お腹の管を抜きます 状態により前後することがあります (必要に応じて)痛み止めの点滴をします	持続点滴が終了します (必要に応じて)痛み止めの飲み薬が処方されます	日中まで点滴をします
検査	血液検査とレントゲン撮影をします	必要に応じて行います	
食事	回診後、医師の指示で水分(水・お茶のみ)を摂取することができます	術後3日目頃より、昼から流動食が開始となります	昼から5分粥食となります
排泄	尿の管が入っています 歩けるようになれば、排便はトイレを使用します	医師の指示により尿の管を抜き、トイレを使用します	
清潔	朝ベッド上で、うがいと顔拭きを行います タオルで体を拭くことができます (必要な場合はお手伝いをします)		
活動 (安静度)	回診後からは病棟内でお過ごしください (初回歩行時は看護師が付き添いをします) 初回歩行後は、ふらつきなどがなければ1人で歩けます 歩行後、弾性ストッキング(血栓を予防する靴下)を脱ぎます 状態によって変更があります	制限はありません 手術後合併症予防のため、積極的に歩きましょう	
説明 (指導)	看護師から食事の食べ方について説明があります 痛みが強い時や、気持ちが悪い時など、異常を感じた時はすぐにお知らせください		
その他	退院日まで毎日回診があり、医師が手術部位の状態を確認します		

外科パス:

腹腔鏡下右側大腸切除術: 2日前入院パス 入院診療計画書

患者氏名

() 患者 I D

月 日	術後5日目		術後6～9日目	退院日
患者目標	手術後合併症を起こさない		日常生活に支障がない状態で退院を迎えることができる	
治療 処置 注射 (内服)				退院時に処方がある場合は、薬剤師からお渡しします (不在の場合には看護師からお渡しする場合があります) ネームバンドを外します 体温計を回収します
検査	必要に応じて行います			退院後の過ごし方、次回外来について説明をします 次回の外来予約票と診察券をお渡しします
食事	昼から全粥食となります	昼から常食(必要に応じて治療食)です		会計担当者が、お部屋へ伺います(開院日) 会計の説明を聞いてからの退院となります 状況によっては、多少お待ち頂く場合がございます
排泄	トイレを使用します			
清潔	シャワー浴ができます (必要な場合はお手伝いをします)			
活動 (安静度)	制限はありません 手術後合併症予防のため、積極的に歩きましょう			
説明 (指導)	術後5日目頃に栄養士から栄養食事指導があります			
その他	退院日まで毎日回診があり、医師が手術部位の状態を確認します			



外科パス: